

第7回「大規模災害廃棄物対策九州ブロック協議会」 議事要旨

1. 日時

平成 30 年 1 月 31 日（水） 13:30～16:30

2. 開催場所

福岡朝日ビル B1 階 13,14 番会議室

3. 出席者

別添出席者名簿のとおり

4. 議題

- (1) 「平成 28 年熊本地震に係る記録誌」に関する報告
- (2) 「災害廃棄物処理計画作成モデル事業」に関する報告
- (3) 災害廃棄物対策の今後のあり方
- (4) 平成 30 年度以降のブロック協議会について

5. 議事概要

(1) 「平成 28 年熊本地震に係る記録誌」に関する報告

- ・資料 1-1～1-3 を用い、事務局より報告。

意見交換で出た主なご意見は下記のとおり。

- ・ヒアリング調査から見えた課題について、国・県・市町村いずれのレベルでのことかを意識し、記録誌を取りまとめてほしい。
- ・記録誌は、各地域や、次にまた起こり得る災害対応を担う人たちの一助となることを念頭に、整理すること。

(2) 「災害廃棄物処理計画作成モデル事業」に関する報告

- ・資料 2 を用い、事務局より報告。

意見交換で出た主なご意見は下記のとおり。

- ・仮置場必要面積に関する検討では、それぞれのケースでどういった条件設定を行ったのか。
→【事務局回答として】発災後に一旦仮置場への搬入のピークが発生し、その後徐々に減少、以降は最長 3 年の処理期間中、解体ごみが一定量搬入され続けることを基本とした。
それぞれのケースは、搬入開始日、搬出開始日の条件を色々変えて設定した。
条件によっては、指針の推計に基づく仮置場の必要面積より少なく済むケースもあるので、まずは仮置場の確保に努めましょうという趣旨で試算を行った。
- ・仮置場必要面積の説明で、異なる面積となっていたところがあったが、整合性はとれているのか。
→【事務局回答として】一方には、津波堆積物の量が含まれていない。
- ・一部事務組合におけるモデル事業の場合、構成市町村では災害廃棄物処理計画は策定しないのか。
→【事務局回答として】今回のモデル事業では、組合の災害廃棄物処理計画ではあるものの、組合と構成市町村で取り組むべき処理計画という位置づけで案を作成した。構成市町村は、今後それぞれの災害廃棄物処理計画を策定する予定である。
- ・災害廃棄物を焼却処理する場合、リサイクル率はどのように考えているか。

→【事務局回答として】特にリサイクルの措置を講じない場合、リサイクル率は62%と試算されることから、これをベースに、リサイクル率を向上させるための取組を検討することになる。

- ・災害廃棄物処理計画を策定することで、地域でPDCAサイクルをまわしていけるようにすることが、このモデル事業の本来の目的ではないかと感じている。「災害廃棄物処理計画の策定率向上」もモデル事業の目的の一つに挙げられているが、ただ策定率を上げるのではなく、必要な情報、手順、法制度、書類などを整理したり、マニュアルを整備することが必要である。

(3) 災害廃棄物対策の今後のあり方

- ・資料3を用い、事務局より説明。

意見交換で出た主なご意見は下記のとおり。

- ・D.Waste-Netの支援の一環で、仮置場への人員も手当てしてもらいたい。小さな市町村では職員が足りず、現場にも人手を取られると役職者も不在となり、庁舎内の指揮命令系統がうまく機能しなくなる。他の自治体へ人的支援を要請して確保するといったことも含め、検討していただければと思う。

→【事務局回答として】まず自治体においては、人員の確保という点について災害廃棄物処理計画の中であらかじめ対応を検討していただきたい。その上で、対応が困難であることも理解できるので、ブロック協議会のような場で人材確保の手法なども紹介できればと思う。

- ・平成29年11月には、九州地方知事会において、新たに「九州・山口9県における災害廃棄物処理等に係る相互支援協定」が締結され、その後各県の課長らと意見交換を行った。ブロック協議会においても、関係者が顔の見える関係を築きながら、一緒に議論をしていければと思う。
- ・資料に示されている「地域ブロックレベルの取組」の中で、ブロック内連携に関することを入れる必要があるのではないか。
- ・九州地域では、近年大きな災害を経験している。災害廃棄物処理対応の強化において、経験に勝るものはないので、国の方でも、ぜひ九州の「現場感」を大事にし、現場で苦勞された方の知恵やノウハウ、ネットワークなどを今後に生かしていただきたい。
- ・災害廃棄物におけるBCPの考え方について、誤解を招かないか心配である。事業継続計画は、優先順位を決めてリソースを確保するのではなく、本来は限られたリソースの中で、絶対にやらないといけないことやどこまでできるか、できない部分をどうするかを検討するものである。

(4) 平成30年度以降のブロック協議会について

- ・資料4を用い、事務局より説明（ご意見等は特になし）。

配布資料

出席者名簿、配席図

- 資料1-1 「熊本地震に係る記録誌」作成の経過
- 資料1-2 平成28年熊本地震における災害廃棄物処理に関する振り返り
- 資料1-3 記録誌とりまとめ（案）
- 資料2 「災害廃棄物処理計画作成モデル事業」に関する報告
- 資料3 災害廃棄物対策の今後のあり方
- 資料4 平成30年度以降のブロック協議会について